

第 384 回 昭和の森自然観察会

水辺の植物や生き物たち

平田稚江子（千葉市）

日 時：2024 年 6 月 9 日（日）10 時～12 時 天候：曇り

参加者：21 名（大人 15 名 子ども 6 名）指導員 6 名 事務所 1 名 計 28 名

担当指導員：玉川 平田稚

今回の観察会は水辺の植物と生き物を合わせたちょっと欲張りな内容となっていました。早速、親子グループと大人グループの 2 班に分かれ観察会をスタート。どんな虫がいるかなと左右を見ながら階段を降りると、少しずつ手入れされて回復しつつある色とりどりのハナショウブが目の前に広がっています。

大人の皆さんはハナショウブを觀賞し、子どもたちは花の上をスイスイ飛んでいるウチワヤンマに目が釘付け。ここにはゲンジボタルが生息していること、ホタルのいる環境を守るためには、ゲンジボタルの幼虫が食べるカワニナがたくさんいること、そのカワニナが食べるコケがあること、きれいな穏やかに流れる水が必要なことなどを伝えました。木道の入り口付近でガマを観察。指ではじいて花粉を飛ばすと、ふわーっと黄色い花粉が舞い皆さんから思わず歓声が上がりました。葉を切って断面を見てもらい段ボールの断面に似ていることを確認。ハニカム構造の説明をし、ハニカム構造は軽くて丈夫なことから新幹線の床や飛行機などに利用されていると話す。葉や茎の空洞を確認し抽水植物は酸素を根まで運ぶために葉や茎の通気組織が発達していることが分かりました。ヨシ原のところでは、ヨシの茎は固くて中空、葦簣などに加工される。さらに生き物の住処や隠れ場所としても大切、ここでオオヨシキリが子育てしていることを話す。

そして、いよいよ田んぼに到着。田んぼの畦を歩いてニホンアカガエル、オタマジャクシ、ザリガニ、メダカ、カワニナ、オオタニシなどを観察。また、ショウブの葉の匂いと棒のような花を観察。テーブルに用意した生き物たちのところではホトケドジョウ、メダカ、トンボのヤゴ、シナヌマエビなどを見て子どもたちは大喜びし、テーブルから離れませんでした。用意してあったハスの葉とスイレンの葉の違い、ロータス効果の話、ホテイアオイの浮器の断面を観察などの後、子どもたちはハスの茎でシャボン玉を飛ばして楽しみました。



田んぼの生き物観察



トンボのヤゴすごいね！



段ボール断面と似てるね